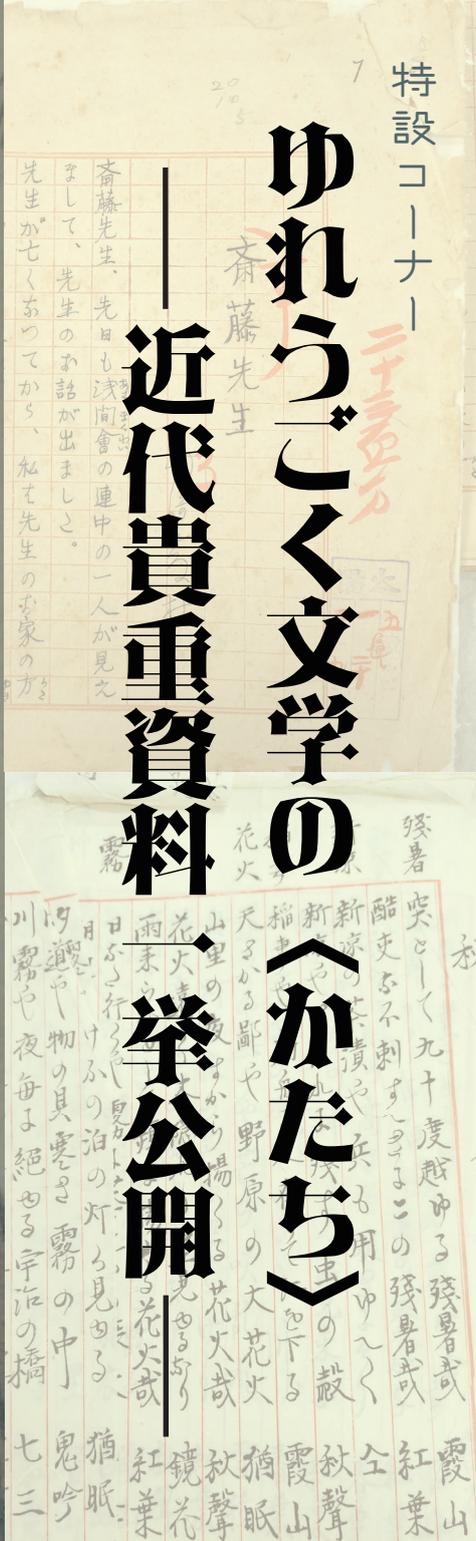




同時開催 通常展示「和書のさまざま」



特設コーナー

ゆれうごく文学のへかたち

近代貴重資料 挙公開

近代文学の研究は、近年いちじるしく進展しています。インターネット環境の整備、とりわけ画像データベースの拡充によって、これまで見えていなかった文学のへかたち々が次々に判明してきました。今回の特設展示では、国文学研究資料館が所蔵する近代文学資料——ほとんどが初めて展示されます——をご覧いただき、あわせて近年の研究によって明らかになったことをご紹介します。文学のへかたちを考えるための貴重な手がかりとなるのが、文学者たちの残した「自筆資料」です。草稿や書簡などの自筆資料は、ひとつの作品のへかたちをどれほど多くの試行錯誤と相談、協力のもとにできあがったものであるかを如実に示すものです。19世紀後半から20世紀後半の戦後文学まで、小説、詩歌、翻訳の資料を取りそろえました。作品が雑誌や新聞に載り、さらに単行本となってへかたちを変えてゆくさまも展示します。文学者が言葉を選び、他者と協力して作品を作りあげ、その成果が書物として読書界に羽ばたいてゆくプロセスを、ぜひじっくりご覧ください。

2026年

5.8 金 ▶ 8.4 火

ギャラリー
トーク

5.21* 6.18* 7.16*

*時間は開催日近くにお知らせします

会場

国文学研究資料館
1階展示室

時間

10:00~16:30

閉室日

土曜・日曜・祝日・第4水曜



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

所在地：〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 TEL：050-5533-2910
E-mail：jigyoun@nijl.ac.jp WEB：https://www.nijl.ac.jp/

展示資料解説

(※会場では35点ほど展示予定)



1 永井荷風『小説 来訪者』自筆草稿

昭和21年に刊行された『小説 来訪者』の下書き原稿。和紙と筆のたたずまいとはちがって、内容はホンモノとニセモノをめぐる前衛的な物語です。訂正痕からは荷風の構想の深化のあとが読みとれます。

2 島崎藤村『斎藤先生』自筆草稿

現在の東京理科大学の創設者の一人で、小諸義塾時代の同僚であった理学士・絞島晋をモデルに、酒に溺れ、身を持ち崩す姿を突き放しつつ、時に同情的に描こうとする姿勢がうかがえます。

3 与謝野晶子・鉄幹添削 丹羽安喜子歌稿

与謝野晶子と鉄幹が、蘆屋短歌会を主宰した丹羽安喜子の歌を添削した資料。一字一句をゆるがせにしない師の添削と、師の前に身を投げだす弟子の緊張が、短歌史の隠れたルールを明かす資料です。

4 中江兆民『三酔人経綸問答』自筆草稿

明治20年、「南海先生」「洋学紳士」「東洋豪傑」が酔っぱらいながら世界と政治を語る、小説のような論議のような本が生まれました。中江兆民が「言論」を作った方法を、自筆草稿にご覧ください。

5 尾崎紅葉・泉鏡花ほか『晩鐘会資料』

尾崎紅葉や泉鏡花、徳田秋声たち「硯友社」のメンバーが俳句を詠みあった「晩鐘会」の記録。言葉の革新によって文学を革新しようとした、若き文学者たちの機知を見ることができます。

6 『情話新集』叢書

近代に花開いた「江戸趣味」の精華をつたえる叢書。竹久夢二の装幀で、谷崎潤一郎『お才と巳之介』や岡本綺堂『箕輪心中』など、江戸の物語をモダンに作りかえた作品が産み出されました。